

ワクチンの誤情報



現在のデジタル時代において、情報は迅速に拡散します。残念なことに、誤った情報も同じく迅速に拡散してしまいます。ワクチンに関する誤解は、小さな噂や誤解、あるいは意図的な偽情報の流布から始まることもあります。

このような誤情報は恐怖や混乱を招き、麻疹のようにコントロールできていた感染症の集団発生につながったケースもあります。よくある誤ったワクチンに対する思い込みを打ち砕いて、事実を明らかにしましょう。

誤情報: ワクチンは自閉症を引き起こす

事実: ワクチンが自閉症を引き起こすという科学的な証拠はどこにもありません。この間違った考えは1998年に不完全な研究が発表されたことから始まり、その後、深刻なエラーや道徳的問題のために撤回されました。それ以来、世界中の何百万人もの子どもたちを対象とした多くの広範囲にわたる調査研究によって、ワクチンと自閉症との間に関連はないことが判明されています。

誤情報: 自然免疫はワクチンから得られる免疫よりも優れている

事実: 病気にかかることで免疫ができることもあります。その免疫には一貫性がなく、深刻な健康リスクを伴うこともあります。例えば、水ぼうそうにかかることでもう二度とかかることはありませんが、皮膚の感染症や肺炎のような深刻な合併症を引き起こすこともあります。その一方でワクチンには、重症化リスクなしで同じ予防効果があります。

誤情報: ワクチンには有害な成分が含まれている

事実: ワクチンには、有効性と安全性を維持するために必要な成分が含まれています。ホルムアルデヒドや水銀など、響きが怖い成分もあるかもしれませんが。しかし、ワクチンに含まれるホルムアルデヒドの量は微量であり、実際に、毎日体内で自然に生成される量よりもかなり少ないのです。ほとんどのワクチンには水銀が含まれておらず、水銀の一種であるチメロサルは、2001年に全ての小児用ワクチンから取り除かれました。水銀を使用することで複数回接種されるワクチンの細菌や真菌の繁殖を防ぐことができます。さらに、ワクチンは科学者や医療専門家によって継続的に検査され、安全性が監視されています。



ワクチンの 誤情報



誤情報: 病気を予防するはずのワクチンが、その病気を引き起こす原因になることがある

事実: ほとんどのワクチンには病気にならないウイルスや細菌の一部が含まれています。一部のワクチンには弱毒化された、または「生きた」ウイルスが含まれていますが毒性がとても弱く、病気を引き起こすことはありません。その代わりに、本物の病原体が侵入した時に抵抗する方法を免疫に教えるのです。

誤情報: ワクチンは免疫力を低下させる

事実: ワクチンは免疫を訓練し、強化させます。害の無いバージョンのウイルスや細菌を体内に取り込むことで、免疫はそれに対する防御方法を学習します。そうすることで本物の病原体が侵入した時でも、あなたの体は何をすべきかを把握しています。

誤情報: 集団免疫が私を守ってくれるはずだからワクチンを打つ必要はない

事実: 新生児や基礎疾患を持つ人など、ワクチンを受けることができない人々を守るために大多数の人々がワクチン接種を受けることで初めて集団免疫が成り立つのです。多くの人たちがワクチン接種を拒否すると、集団免疫は成り立たず、最も体の弱い人たちなど全ての人々がリスクにさらされることとなります。

誤情報: ワクチンの中に人を追跡するマイクロチップが入っている

事実: ワクチンの中にマイクロチップや追跡装置が入っていることは絶対にありません。このデマは医療従事者が管理する電子カルテにまつわる誤解から生じたものである可能性があり、個人が追跡されるという事とは何の関係もありません。

誤情報: すでに克服した病気に対してワクチンを打つ必要はない

事実: ワクチンのおかげで発症する可能性がかなり低い病気もありますが、完全に消えたわけではありません。ワクチン接種をやめてしまうと、そのような病気は急速に再発する可能性があります。だからこそ、病気を予防し、我々の地域社会を守るためにワクチンが必要なのです。

